

# 平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	地域企業との連携のもとで、環境を活かした観光業に役立つ人材を育成するための再チャレンジ支援プログラム開発について		
法人名	学校法人大岡学園		
学校名	大岡学園高等専修学校		
代表者	理事長 大岡 豊	担当者 連絡先	瀧下 尚子 TEL0796-22-3786

## 1. 事業の概要

若者早期離職者をはじめ、地域でさかんとなってきている環境を活かした観光・サービス事業に役立つ人材育成に寄与するための教育プログラム、教材を研究、開発すると共に、地元企業等と連携して、企業へのアンケート、先進地域関連企業における人材育成、研修等のヒアリングを行い、環境、観光の専門知識、キャリア・カウンセリングの活用など、若者を中心とした再チャレンジ支援に向けた教育プログラムを研究、開発することをした。

## 2. 事業の評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況

若者早期離職者など、再チャレンジを目指す人々に対して、コウノリをはじめとする地域の環境、観光資源を活かして、サービス業等に役立つ人材育成プログラムの研究、開発を行った。環境や観光を大きなテーマに企業実習を踏まえて、人材育成プログラムの策定を目指したが、企業の受け入れ体制等、企業連携の難しさを再認識した。一方再チャレンジを目指す上でも、自己分析、キャリア・カウンセリングの活用など効果的な教育プログラムに関しての研究はすすめられた。但し、企業実習に関するより一層具体的なマニュアルづくりに関しては、まず、求職者側のトレーニングをしっかりと行うことを前提に、企業側への啓発、啓蒙にとどまった。

### ②事業により得られた成果

再チャレンジを目指す若者にとってまず大切なことはやはり自己分析、やる気など自分を再発見することの重要性が再認識された。その過程の中で、企業との連携、企業の求める人材層など具体的な取り組みや、今回のテーマである環境や観光に関して、地域をすることを重要性を改めて理解した。また、今般の事業全般を通して、キャリア・カウンセリングの活用方法に関しては、大変参考になった。企業実習を行う際にも事前事後の指導が非常に重要であり、個々人の特性、適性などをしっかりと把握した取り組みが重要であり、教育プログラムに取り入れた活動が大切であることなど今後の具体的な取り組みに役立てたい。

### ③今後の活用

コウノリの野生復帰に代表されるように当地域では、環境を活かした観光資源の活性化、それに伴う人材育成を行う中で、まずは地域をしっかりと理解し「知る」ことの重要性を再認識した。このような観点から「コウノリ・環境と観光がわかる」に関しては、企業が求める人材像を踏まえ、地域企業や求職者への基本的なテキストとして取り組みたい。また、「なりたい自分のデッサン 自己分析と企業実習に関連して」はまず、自分をしっかりと知るために、また企業における企業実習のあり方など、実践的な活動展開をするための羅針盤として活用したい。

### ④次年度以降における課題・展開

今回開発した教材に関しては、再チャレンジを旨とする若者にとっては、従来からあまり触れたことのないようなアプローチの仕方であり、ハローワーク等とも連携して、再教育の一環として取り組んでいきたい。

また、企業側へのアプローチが難しく、本年度は企業実習などの価値観、研修等の重要性に関しての啓蒙、啓発が主であったが、企業実習の活用などより一層具体的な取り組みを行うことにより、有益な教育プログラムとしていきたい。

キャリア・カウンセリングに関しては、重要性を再認識したが、職員がそのマインドをしっかりと持つことも非常に重要であることが再認識されたので、より一層深化させ、アプローチの仕方、家庭との連携などを模索しながら、研究活動を継続していきたい。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①ニーズ調査等

ニーズ調査に関しては、地元の観光業等の企業において、環境や人材育成、採用、正規・パート社員などの比重、企業実習への理解度、取り組みなどを調査し、企業の人材に関する実態の把握に努めた。地元企業110社強にアンケートを発送し、調査、分析を行った。

また、環境を活かした観光業の先進地域と思われる沖縄、北海道・知床地区のホテルなど企業に関してヒアリングを行い、人材育成、マネージメント、求められる人材像などを検証した。沖縄で3社、知床地区で4団体・社の社長、支配人、人事担当者の考えを伺った。

#### ②カリキュラムの開発

企業が求める人材像を目指して研修を構築する一方で、自らをしっかりと振り返り、見つめなおしことの重要性を柱にカリキュラム策定を行った。再チャレンジへの支援ということを眼目に、企業実習への取り組みに際して、事前、事後に個別キャリア・カウンセリングを行い、モチベーションの維持発展に工夫した。また、地域を知ることをはじめ、テキスト、ツーリズムなどを取り込んだカリキュラムの策定を目指した。

#### ③実証講座

再チャレンジを目指す若者にとって、まずわが身を知ることがもっとも大切であり、次いで、地域を知ることが重要となってくる。企業実習を絡めて、事前事後にキャリア・カウンセリングを行い、個別に具体的な取り組みを眼目に2回実証講座を計画し、ハローワーク等と連携して、受講生募集を図ったが、受講生が集まらなかった。そこで、1回目は社会人を対象に2日間にわたり「自己発見セミナー」を市民プラザで開催し、25名の参加を得て、今回研究した教材の「なりたい自分のデッサン」を実証した。また、2回目の実証講座は、本校2年生19名を対象に行い、企業実習の事前事後のキャリア・カウンセリング、地域講座、企業実習での留意点などを取り入れた学習を行い、一定の効果をあげていると思われる。

#### ④その他

コウノトリを環境と観光の象徴として、人材育成への取り組み、それらにかかわる仕事、企業への理解浸透に努めた。特に地域や企業のニーズ把握、先進地域企業の取り組みなどわかりやすく実践的な内容となるように心がけた。また、キャリア・カウンセリングの活用にも際しても、個々人の人格、個性を大切にされた指導の展開など、教職員との連携、家庭とのつながりなどに関して配慮すべきことなどに着目して活動展開した。